

1. 農業農村開発の技術の定義

農業農村開発とは、農業の生産性向上と農村の生活環境の整備を意味する。農業農村開発の技術とは、農業および農村を開発するため、自然に人為を加えて農業を営む人々の生活に役立つような手段である。

一方、農業農村工学とは、農業および農村を開発するための方法・システムなどを研究する学問であるため、必ずしも現場に適用することまでは責任を負っていない。

2. 農業農村開発の技術の導入・普及

農業農村開発の技術の導入・普及過程は、社会と技術という二要素を取り込み、過去・現在・未来という時間軸によって、展開する。現場のニーズに相応しい既存の技術を導入するだけでなく、既存技術がない場合には新たな技術を開発する場合もあれば、技術が定着したことで消滅する技術、または将来使えるかも知れない新技術もある。

技術は、農作業の力仕事を軽減し、農作業に拘束される時間を解放し、農民たちの生活にゆとりを作り出すという大きな役割を担っている。

しかし、技術の導入と普及によって、農作業の方法が劇的に変化し、農業の専門化を促し、農村生活を大きく変貌させる。急速な技術の導入は環境の破壊をもたらし、社会の混乱を招くことになる可能性がある。

したがって、地元の農業農村の現状と社会的ニーズを正しく分析し、どの技術をどの順番でどのような速度で誰に普及させるかを慎重に考えなければならない。地域社会の既存技術と新技術の相互関係に対する配慮も必要である。また、農業農村の持続可能性を考えた場合、ときにはローテクとハイテクを組み合わせながら、じわじわと技術を浸透普及していく。

3. 農業農村社会の本音の把握

農業農村開発の技術の導入・普及しようとするとき、農業農村の人々の本音を把握するのは重要である。

人々の生活パターンは各地域の風土や歴史などに根差し、大きく異なっている。技術は、「たれもが参加できる普遍的な・合理的な・機能的な」文明として、農業農村社会に導入できても、文化レベルでは導入できない。したがって、現地の労働形態、風習、社会関係などを含めた文化まで踏み込んで理解する必要がある。

特に海外調査において、文化や常識の違いによる不便が多いため、ロジまたは現地のカウントパートとの人間関係が重要である。一方、文化が異なっても、農家のマインドには共通点があり、発展途上国における農業農村開発を考えると、日本の技術者は日本における農業の歴史経験を参照する意義が大きいである。